

地域防災力の強化・向上

矢守 克也

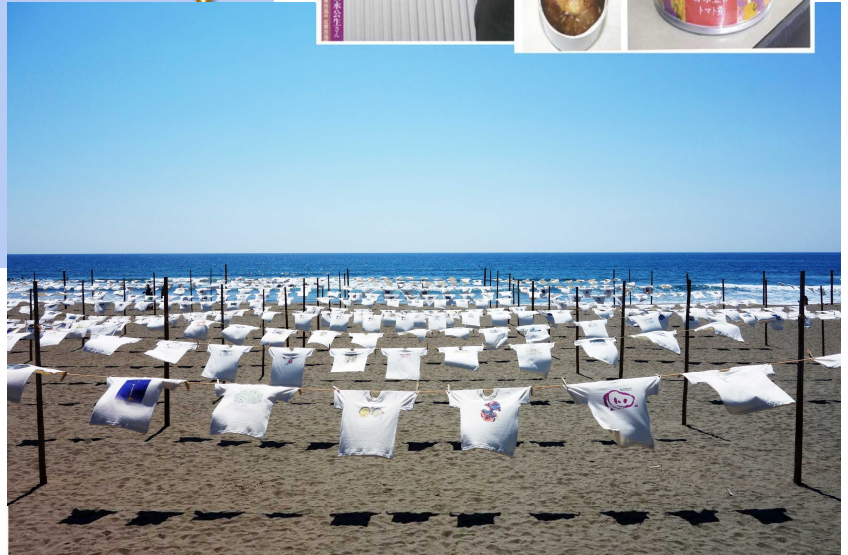
京都大学防災研究所・教授
(防災心理学・災害情報学)

今日のメニュー

- 基本哲学1「Xがない、YがXです」
 - 「私たちの町には美術館がありません、美しい砂浜が美術館です」(高知県黒潮町)
- 基本哲学2「我は行きたり避難訓練」
 - 「来たらば共に死んでやる」とのコントラスト
- 津波避難訓練支援アプリ「逃げトレ」
 - 地域社会と高校生(同須崎市)
- 防災ゲーム「クロスロード」
 - 全国の地域社会で(神戸市発全国へ)
- 「屋内避難訓練」
 - コミュニティと中学生(同黒潮町)
- 「押しかけ家具固定」
 - コミュニティと小中学生(同四万十町、黒潮町)
- 「マップづくりと高台移転」
 - コミュニティと小学生(同四万十町)

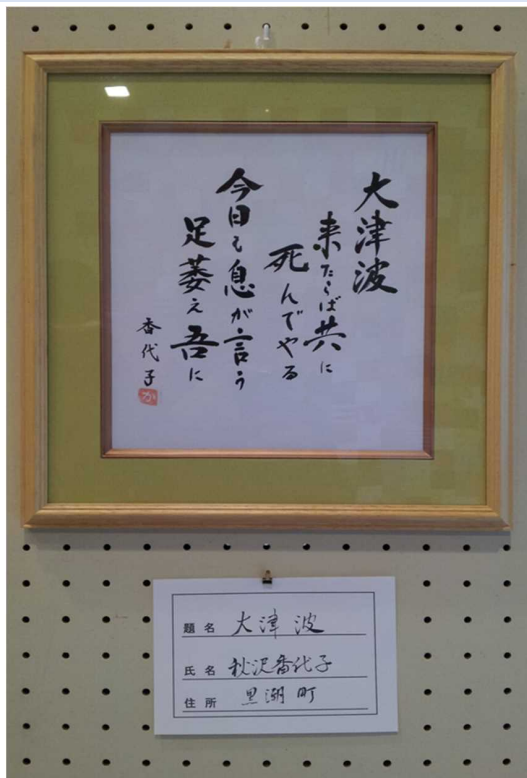


写真提供：
高知県黒潮町
NPO法人砂浜美術館



私たちの町には美術館がありません。美しい砂浜が美術館です。

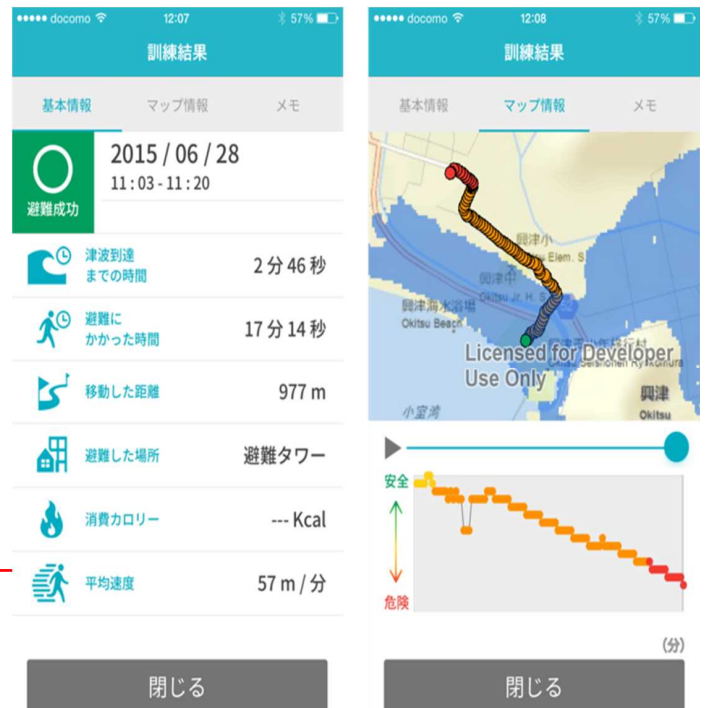
2つの短歌に見る巨大想定を受けとめ



「逃げトレ」とは？

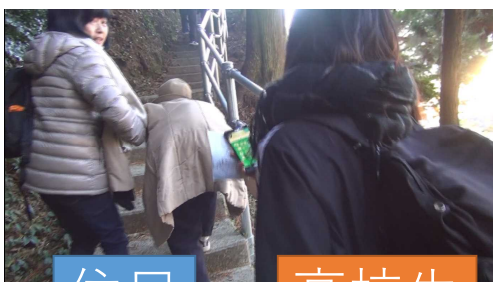
• 訓練終了後の表示画面

- 訓練後に、**訓練結果の判定**（成功・危機一髪・失敗）や、**津波に追いつかれる時間までの最短時間**、**移動距離**、**移動平均速度**、**移動軌跡**などの結果情報を表示する。
- **災害時ではなく事前に**、津波避難について学習することを主目的にしたアプリ。



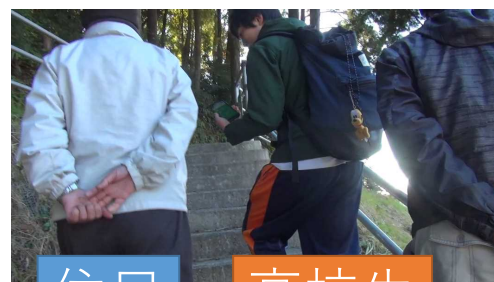
逃げトレを用いた訓練事例

- 須崎市岡本地区で、2016年12月18日（日曜）午前8時から、**須崎高校生が「逃げトレ」を使い、高齢な地域住民の方々と一緒に避難する**津波避難訓練を実施しました。



住民

高校生

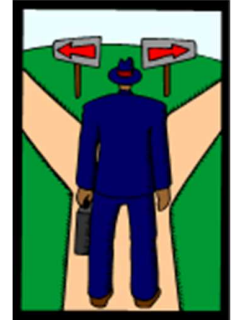


住民

高校生

「クロスロード」 あなたはどうする？

「クロスロード」ってどういう
意味？



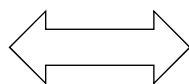
- 分かれ道: 右に行く／左に行く？
- どっちが正しいのだろう？
- 大切な決断、選択

「クロスロード」 サンプル1

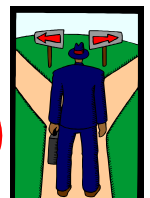
- あなたは..... 住民です。
- 大きな地震のため、自宅が半壊。水道、ガス、電気もとまって、避難所(中学校の体育館)に避難しなければなりません。体育館は人でいっぱいらしいです。でも、家族同然の飼い犬もも(ゴールデンリトリーバー、メス3歳)がいます。一緒に避難所に連れて行く？



YES
(連れて行く)



NO
(自宅に残す)





上：和歌山市総合防災訓練
 左上：益城町いぬネコ家族プロジェクト
 左下：ペット用非常持ち出し袋

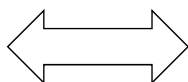


避難所・・・指定する施設は、市立の小・中・高等学校、市立大学、コミュニティセンター。・・・なお、ペットとの同行避難が可能な場所は、原則、市立の小・中学校とする。・・・また、市立の小・中学校は、避難所の居住スペースとは別の場所に、ペット動物の飼育場所を確保する。
 (「名古屋市地域防災計画」から)

「クロスロード」 サンプル2

- あなたは..... 被災した公立病院の職員。
- 入院患者を他病院へ移送中。ストレッチャー上の患者さんを報道カメラマンが撮ろうとする。腹に据えかねる。そのまま撮影させるか？

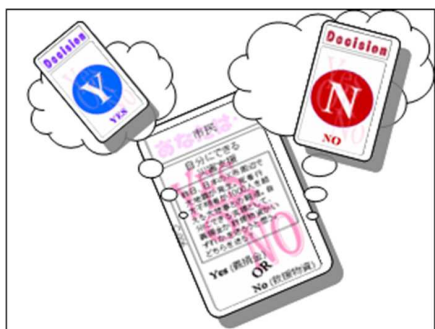
YES
 (撮影させる)



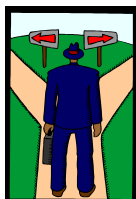
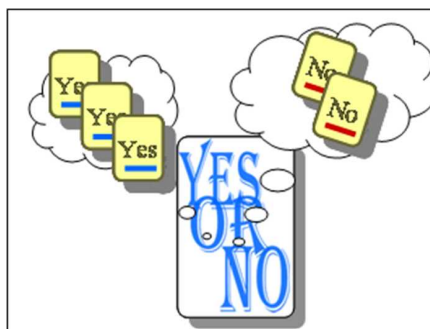
NO
 (撮影させない)

クロスロードのやり方

1 YesかNoか—どうしよう...？



2 決めて、Y/Nカードを裏向けで



3 オープン...！

4 どうしてそう思ったの？ みんなの意見を聞こう



「クロスロード」の特徴は？

1. 正解がないこと：
そのときその場でみんなで作る
2. 実話にもとづいていること：
やはり、20年前のあのときが原点
3. 自分の「想定外」に気づく：
「そんな考えもあるの？」、「そんな人もいるの？」、新鮮な「想定外」からの学び

屋内避難訓練の実施後・・・

- ◆ 今回の屋内避難訓練の対象者の2015年までの一般的な津波避難訓練の参加率は**36.4%**だった。
 - ◆ 津波避難参加率…主要道路にまで避難した人の割合
 - ◆ 2016年10月26日以前の屋内避難訓練の参加者データに基づく
- ◆ しかし、2016年11月5日に実施した町一斉の夜間津波避難訓練では、同じ住民の避難訓練参加率は**100%**になった。

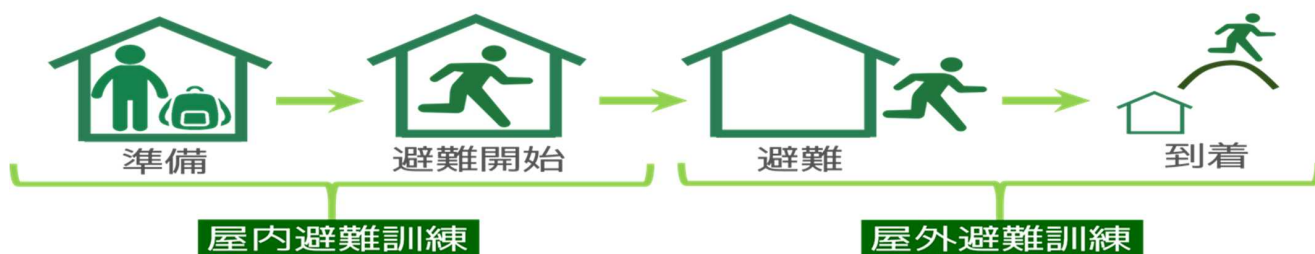
- あきらめない、できることからする、次のステップにチャレンジする
- **フット・イン・ザ・ドア／フット・アウト・ザ・ドア**

屋内避難訓練で各家庭を訪問すると… たくさん見つかる屋内の不備

- 家具固定が進まないのは「する気がない」からではなく「できないから」
- (高齢者のみの世帯割合 47.1% (2015年))
- 小中学生による家具固定の実施

屋内避難訓練

- ✓ 訓練を行う前に、訓練者住宅の居間や寝室を点検し、転倒の危険がある家具の状況や間取り、玄関まで距離等を、訓練実施者が作成した「カルテ」に記入する。
- ✓ カルテ作成は、地元の中学生



私たちが、家具固定しました！

【防災活動の特徴】

- ◆熊野浦地区は土地が広く、住民一人ひとりが自立して避難する必要がある。
- ◆迅速に避難開始するために住宅を戸別訪問して、**家具固定が必要な全世帯に**固定を実施した。

【活動の流れ】

STEP1



2016年1月19日（火曜）のふれあいサロンにて、**四万十町興津地区の事例写真**を用いて、**家具固定についての説明会**を実施。

STEP2



2016年2月19日（金曜）などに、家具固定が必要な場所について**全世帯対象に訪問式事前調査**を実施。

STEP3



2016年7月12日（火曜）などに、黒潮町の**家具転倒防止補助制度**を活用し、**住民・役場・企業・大学が連携し家具固定**を実施。



【佐賀分団・熊野浦地区】

人口：48人
高齢化率：**62.5%**
※2017年4月2日時点

【津波災害の想定】

34.4mの最大津波高が熊野浦地区内で想定されている。

100点満点の防災をすることはできないけれども、何もしなければ0点。



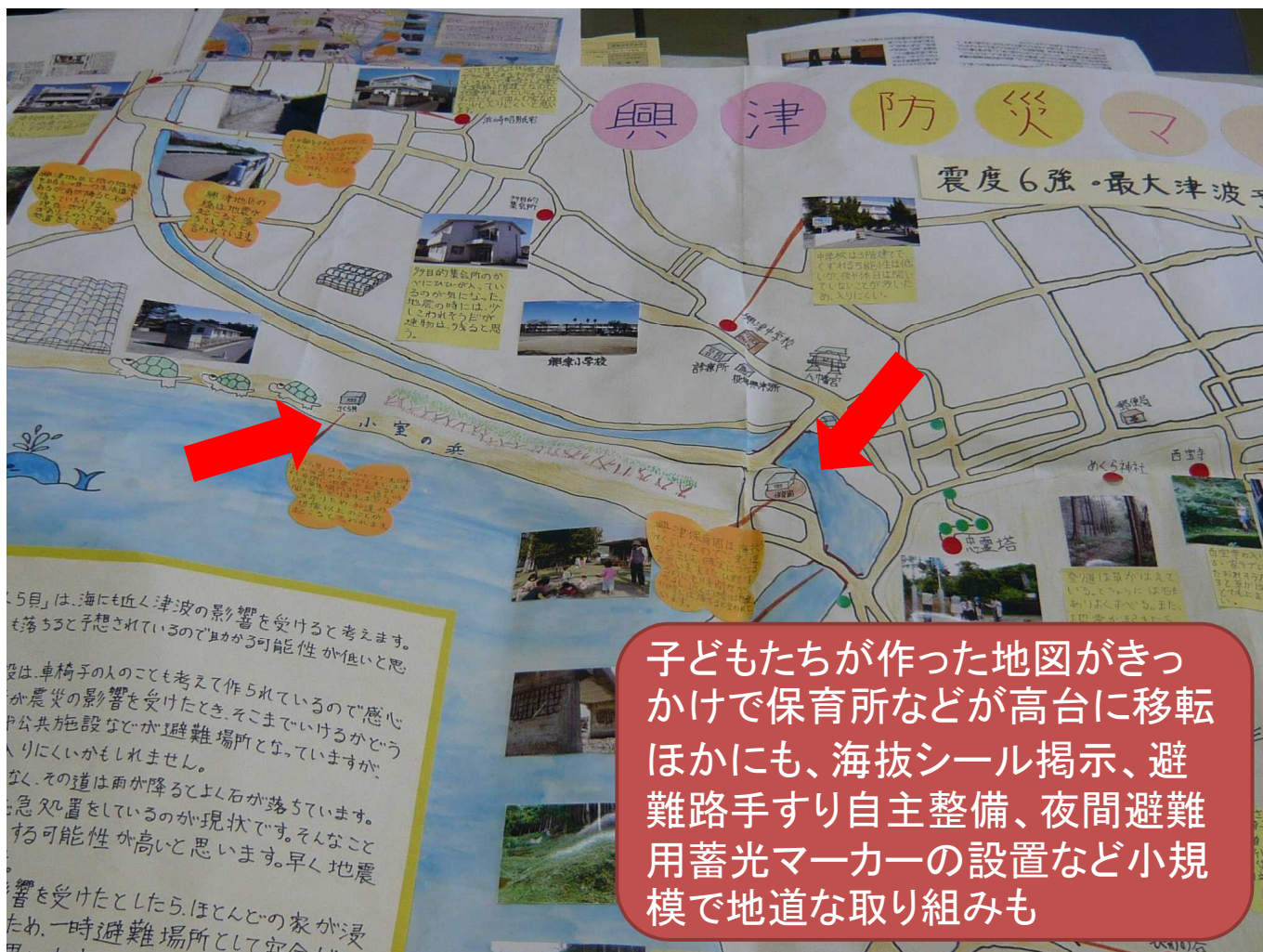
人口：900人弱
農業、漁業、海水浴場

高知県四万十町興津地区

高知県
興津小学校

南海トラフ地震

今30年の発生確率＝60%以上
津波の最大高さ20メートル以上
地震から早くても20分くらいで来る



まとめ

- 地域防災のベースにおくべき哲学
 - 「Xがない、YがXです」、「我は行きたり避難訓練」
 - 防災から町の「百年の大計」へ
 - 「クロスロード」：その時その場でみなで正解を作る
- 「平常時にも非常時にも」
 - 「34ブランド」→地場産業活性化、雇用促進、町の誇り、非常備蓄品、「逃げトレ」→健康促進、自力避難
- 防災を通じた人材育成
 - 「屋内避難訓練」「家具固定」「逃げトレ」→地域と学校の交流、考える力、行動する勇気、思いやる心を養う教育、子どもと高齢者の交流
 - ~~「ここには安全なところはないんだとわかりました」~~
- 復興へ向けたソフト・ハードの先行投資
 - 高台移転、拠点としての保育所とデイサービス施設
 - 砂浜美術館、34ブランドという誇り
- ICTの活用～逃げトレ、ただしICT・Gapを埋める手立ても

ありがとうございました

